



橋本健一郎氏  
十一月前半は、九月のA  
D P全米雇用リポートで  
非農業部門の雇用者数(政  
府部門を除く)が前月比一  
三万五、〇〇〇人増と市場

予想に届かなかつたこと、中国が国慶節で材  
料難の中、党大会への警戒感などのマイナス  
材料もあつたが、中国の銅スクラップ輸入規  
制による精錬銅需要の増大が期待感として相  
場に織り込まれてゐること、連休明けの中国  
の買いが供給不足観測から投機的な買い続い  
たこと好感しLME銅相場はU.P.、十月十四  
日時点六、八五六ドル(セツル)と月初価格  
より四〇一ドルU.P.の前半締めとなつた。

後半は、米ニューヨーク連銀が発表した十  
月の製造業景況指数が三年ぶりの水準に上  
昇したこと、トランプ米大統領が共和党上院  
トップのマコネル院内総務と午後に記者団  
の質疑に応じ、年内の税制改革法案の成立な  
ど課題実現に向けた協力関係を強調したこ  
となどのプラス材料もあつたが、米税制改革  
の不透明感、心理的節目である七、〇〇〇ド  
ルを超えたこと、中国全人代で期待されるほ  
どの声明がなかつたことから、LME銅相場  
はDOWN、十一月九日現在で、後半スター  
ト価格から二八一ドルDOWNの六、八一二  
ドル。銅建値は八二万円のスタート。

#### ◆月間のドル／円レート (TTS) 一一三・七〇→一二四・一四(円)

日本自動車工業会によると、自動車生産台  
数は前年比一・七%増の八五万五、一二三台で  
あつた。

#### ◆自動車生産台数

日本自動車販売協会連合会によると、自動車  
販売台数(軽除く)は前年比五・三%減の二三万  
台、五六三台。

◆新設住宅着工戸数  
国土交通省統計によると、新設住宅着工戸数  
は前年比一・九%減の八万三、一二八戸であつた。

#### ◆貿易関連指標 輸出

財務省貿易統計によると、輸出は前年比で電

# スクラップ需給、余り気味か

橋本健一郎氏リポート①

## 銅地金輸入とスクラップ輸出が大幅増

氣銅が五・二%減の四万八、九八三t、スクラッ  
プが八二・八%増の二万九、六二三t。

### 輸入

輸入は電気銅が前年比六七五・三%増の一、  
三五五t、スクラップが一八%減の一萬〇、〇五  
三t。

### ■前月の国内指標

日本伸銅協会発表の伸銅品生産推移(速報)に  
よれば、前年比〇・四%増の六万八、一七一t。  
日本電線工業会発表の出荷速報(推定)による  
と、銅電線出荷量は前年比〇・二%減の六万tで  
あつた。

### ■概況

九月の四輪車生産台数は八五万五、一二三  
台で、前年同月比一・七%増となり、二二ヶ月  
連続で前年同月を上回つた。

### 【自動車販売】

九月の四輪車生産台数(軽は除く)は二  
三万一、五六三台で前年比五・三%減と、三力  
月ぶりマイナス。このうち、乗用車四・四%減、  
貨物五・八%減、バス一五・四%減。

### 【住宅着工数】

平成二十九年九月の住宅着工戸数は八万  
三、一二八戸で、前年同月比で二・九%減とな  
つた。また、季節調整済年率換算値では九  
五・二万戸(前年比一・〇%増)となつた。  
・住宅着工の動向については、前年同月比  
で三ヶ月連続の減少となつており、利用関係  
別にみると、前年同月比で持家、貸家、分譲  
住宅ともに減となつた。

・引き続き、今後の動向をしっかりと注視  
していく必要がある。

### (持家)

前年同月比では四ヶ月連続の減少(前年同  
月比二・三%減、季節調整値の前月比では一・  
六%増)。  
前年同月比では四ヶ月連続の減少(前年同  
月比二・三%減、季節調整値の前月比では一・  
五%増)。

### (貸家)

前年同月比では四ヶ月連続の減少(前年同  
月比二・三%減、季節調整値の前月比では一・  
五%増)。

### (分譲)

(四面より続く)

(分譲住宅)

前年同月比では四力月ぶりの減少(前年同月比五・三%減、季節調整値の前月比では一・九%増)。

・分譲マンション

前年同月比では四力月ぶりの減少(前年同月比九・二%減)。

・分譲一戸建住宅

前年同月比では先月の増加から再びの減少(前年同月比二・二%減)。

【伸銅品生産】

伸銅品生産は前年比〇・四%増の六万八、一七一tで二力月ぶり増加。このうち、内需は五万六、四三五tで〇・七%減と二力月連続マイナス、輸出は一万一、七三六tで六%増と二力月ぶりプラス。品種別では、銅条は二万二、四六六tで二%増と一七力月連続プラス、黄銅棒は一万五、六二七tで五・三%減と二力月連続マイナス。

【電線】

前年比〇・二%減の六万t。このうち、国内は二・三%減、輸出は七八・八%増。出荷部門別では、通信六%増、電力八・四%減、電気機械二・八%減、自動車四・六%増、建設・電販三・六%減、その他内需一・一%増。

【輸出】電気銅が六七五・三%増の二、三五五t、スクラップは一八%減の一萬〇、〇五三t。

【見通し】

- ・自動車は生産が一・七%増。国内販売台数が前年比五・二%減。生産が一二力月連続プラス、販売が三力月ぶりマイナス。下げ傾向かどうか今後の動向に注目。
- ・住宅着工の動向については、前年同月比で二・九%減と三力月ぶりマイナス。下降傾向も続くか注意が必要。
- ・需要の多い銅条が一七力月連続プラス。黄銅棒は二力月連続マイナス、輸出二力月ぶりプラス。黄銅棒が今後もマイナスに続くかどうか要注意。
- ・電線は前年比〇・二%減の六万t。輸出が七八・八%増。需要の多い自動車、建設、電販がそれぞれ四・六%増、三・六%減。全

体として減少傾向。

・銅輸出は、内需用途から地金は減少、スクランプはメーカーの買い控え傾向から増加。

・銅輸入は、内需用途から地金は増加、スクランプはメーカーの原料地金シフトから減少。

【スクランプ需給予想】

流通在庫は、伸銅品生産が小幅の増加だったこと、住宅着工が再び減少したことから発生玉は少ないのではないか。需要面に関しても住宅で再び減少、自動車が販売も三力月ぶりに減少、人不足問題からメーカーが地金を優先に使用していることからスクランプは余り気味なのではないか。

【価格・為替予想】

今月は米国政府の税制改革の進展や、トランプ氏のアジア外交後の北朝鮮問題に左右される。

米税制改革問題に関しては、上院共和党が法人減税の実施を一年先送りすることを検討していると伝わったことから、政策の先行き不透明感が意識された。

北朝鮮問題に関しては、アジア外交で日本、韓国と北朝鮮問題への連携を強める発言がでたことから、ミサイル実験など行われる可能性が高いのではないか?

それらを踏まえた十一月の銅価格は、米税制改革が順調に進み、北朝鮮が軍事的アクションを起こさなかつた場合、先月一段高値の七、一〇〇ドルを予測。いずれかの場合六、八〇〇ドル。下値はいずれの条件も達成できなかつた場合、先月安値の六、五〇〇ドル。

為替は、同様に米税制改革の進展と北朝鮮情勢に左右される。米税制改革に関しては、前記理由から年越しの可能性が高いのではないか。

北朝鮮情勢に関しては、トランプ大統領のアジア外交発言から更に悪化が進むのではないか。

それらを踏まえ予測は、米税制改革問題に向けた審議が予定通り進み、北朝鮮情勢で悪化がなかつた場合、円安値は九月後半安値の一五一円台(TTM)を予測。いずれも行わなかつた場合、同高値の一一一円台を予測している。

銅建値に関しては七六〇~八六〇円程度と予測している。

黄銅棒は二力月連続マイナス、輸出二力月ぶりプラス。黄銅棒が今後もマイナスに続くかどうか要注意。

・電線は前年比〇・二%減の六万t。輸出が七八・八%増。需要の多い自動車、建設、電販がそれぞれ四・六%増、三・六%減。全